

おうちde OH! 齋^{とき}

～あなたもお齋^{とき}を
作ってみませんか～

No. 1

黒豆ご飯・辛子麴^ふ・ごまころ編

近頃は、ご家庭でお齋^{とき}を作って食することがほとんどありません。お店でも購入できますが、思っている以上に簡単にできます。

まずはお気軽にお試しあれ！

素朴な味わいにほっこりすること間違いなしです。



お齋^{とき}とは…

仏教では「食時^{じきじ}」と呼ばれる午前10時から正午までの間に食事をする習わしがあり、この料理を「齋^{さい}」といいます。現在では仏教行事に際していただく食事のことをいい、精進料理が基本です。

皆さまとの食事を通じ、ご法縁^{ごぽうえん}に遇えた喜びを共にする時間として、「お齋^{とき}」も仏事の大切な一部といえます。



「おうちde OH! 齋^{とき}」動画はこちら▶

第1回

本願寺福井別院

寺さんぽ

福井県内の浄土真宗寺院を紹介する新コーナー『寺さんぽ』！

第1回目は「本願寺福井別院」です。

宗祖親鸞聖人ご往生の後、布教伝道が進められていた北陸の地では、第8代宗主の蓮如上人が吉崎に「御坊」を建立され大きく発展しました。

しかし、一向一揆の戦いにより御坊は炎上し、上人は河内国出口（大阪）へ向けて退去を余儀なくされました。

その後、寺地は一乗谷から東郷、北ノ庄柳町を経て現在の地に移ります。その間、幾多の災害に見舞われており、近年では昭和20年の空襲、その3年後の地震によって立て続けに本堂を焼失しますが、昭和38年に現在の姿に再建されました。

この福井別院を一緒にお散歩してみませんか？



「寺さんぽ」動画はこちら



あしたが見えるたしかなおしえ

アミタ

[A m i t ā]
अमित

2021(令和3)年
NO.15
年1回発行



『師主知識の恩徳』

羽溪^{はたに}了^{さしる}（画）

発行所：福井教区教務所

〒910-0003 福井市松本4丁目9-21 Tel.0776-23-2507

発行者：御同朋の社会をめざす運動 福井教区委員会

道はここにある

福井教区講師団員
福井教区福井組光壽寺

野 世 阿 弥

近所に六畳ほどの小さな畑を借りているのですが、春ごろ連れあいが残念そうな顔で「今年は何もできないかもしれない」と言いました。土づくりに失敗したそうです。「肥えた土にしようと思って、米ぬかと木くずを混ぜて半年ほど発酵させ堆肥にして、畑にまぜたが種も苗も育たない。調べてみたら、木くずの分解というのは本来何年かかるものらしい。結局、分解されない状態の木くずを畑にすきこんでしまったので、土は三大養分の一つである窒素を木くずの分解に使ってしまったようだ。よって作物に栄養がまわらなかった」…ざっくり説明するとこのようなことだそうです。しかしその後、不毛の畑からたくさんのカブトムシがわさわさとしてきたのです。どうやら木くずが好きなようで、土の中でいつの間にか分解していたのでした。子どもたちは大喜び。私はそれを見て「よかった」という気持ちまでわいてきました。

仏教は私たち人間に説かれました。すべての命は関係しあい、縁によってお互いを成り立たせあっている。そこに優劣はないのだとお釈迦様は教えてくださいました。畑を見渡せば、土や米ぬかや木くずや窒素、日光や水や虫や鳥が関係しあっています。私もその関係性の中に生きるひとりのはずですが、どうしても「うちの畑の野菜がたくさんとれるにはどうしたらいいか」「こうすれば思い通りになるはずだ」と、自分優位に他の命を見て、行動しています。野菜ができないと落ち込んで、はたまたカブトムシが出てくると結果オーライとばかりに喜んでと、枯れていった種や苗を思うこともなく、常に欲望に左右されています。

欲望を原動力にものごとを考えると、必ずそこには優劣の評価がついてまわります。私が野菜をより多く収穫しようとするれば、邪魔な虫や草が出てくるのと同じように、人間社会がより経済的な利益を追求すれば、我慢させられる人や排除される人が出てきます。生産活動に役立ち、社会の利益につながる人材は大事にされるけれど、能力・資産・性別・障害・年齢・国籍、さまざまな理由でそこにあてはまらない人は追いやられてしまう。この夏「復興五輪」と銘打ち「多様性と調和」を掲げ、大きなお金が流れたオリンピックの裏では、COVID-19の感染拡大だけでなく、福島をはじめとした日本中の被災地は未だ後回

しの状態です。多くの個人飲食店は営業できない状態にあります。失業者や、女性や若者の自死、DVも増加しています。入国管理局では不適切な収容が跡を絶たず、海外から迎えた技能実習生への非人道的な扱いは国内外から問題視されています。

経済が回ればそれでよいのでしょうか。人間は社会のコマなのでしょうか。苦しみは自己責任なのでしょうか。すべての命は関係しあい、平等であり、支え合い尊びあってほしいという阿弥陀仏の願いは、命が不平等に扱われる私たちの現実をはっきりと照らし出してくださいます。命が同じに扱われていないという現実を知らされたなら、もはや「あなたも私も同じ命ですね」という見せかけの調和を隠れ蓑にでははいられません。「本当にこれでいいのだろうか」「どうしたら大事にしあえるのだろうか」という問いを、ひとりひとりの中に生まれさせる大きなはたらきに、私たちは今であっているのです。

他者とともに生きることが絶望的に困難な私たちのためにのお念仏はあります。阿弥陀仏の願いをよりどころに、差別や苦しみを生み出す関係に目を向け、自分を振り返ろう。命が軽んじられる価値観や仕組みを問い直そう。そんな仲間同士になろうと、親鸞さまはお誘いくださいます。私たちの足元には、むなしく不安な人生に対決する道が、まっすぐのびているのです。